

## ボールに乗って

工学部一回生 A.K.

今年の記事のテーマは「この話を読め！！」ということだが、悲しいことに読めと言って読んでくれる人ばかりではないだろう。そこで私は考えた。短いお話なら気軽に読んでもらえるのではないだろうか。そこで私がおすすめするのは「ドラえもん」てんとう虫コミックス第14巻に収録されている、全エピソード中自分が知っている中では最短のエピソード「ボールに乗って」である。この話はなんと見開き2ページでコマ数はたったの8コマ、10秒もあれば読めるので、ぜひとも、どうか、これだけでも、書店で立ち読みでもして（もちろん、店員に追い出されない程度に）読んでみてほしい。

本来ならあらすじを説明してしかるべきかもしれないが、ただでさえ短いので、話に出てくる道具は空を飛ぶ大きなボールであるというくらいにとどめておく。

この話の短さ以外の特徴は、道具自体の持つ面白さ、シュールさにあるだろう。「ビッグボール」、大きなボールに座席が二席付いていて、乗り込んで中からボールの表面をバットで叩くと空を飛び、叩けば叩くほど早くなる。考えてみれば、これほどおかしな乗り物もない。ボールをバットで叩くと飛んでいくのは野球の試合で見慣れた当たり前の風景だが、だからと言ってあなたは、自分からボールに乗り込んで中から叩いてやろうなんていう発想にまで至ることができるだろうか。藤子・F・不二雄先生は、SFを「すこしふしぎ」と捉えて作品を描いておられたのは有名な話であるが、この道具もそんな「すこしふしぎ」な存在の一つかもしれない。



←ビッグボール（11巻収録のイラスト、一人用の小型バージョンのようだ）